



おおいたの 地域を担う ひとつくり



VOL.8

平成28年12月発行

「OJIC(オージック)」とは ○:大分県 J:自治人材 I:育成 C:センターの通称です。

今年も残すところあとわずかとなりました。OJICでは今年も県職員研修、市町村職員研修、そして両者の合同研修を数多く実施してきました。これまで実施した研修と、今後予定している研修をピックアップしてご紹介します。

地域づくり交流塾(旧:自主・連携カレッジ) ～人的ネットワークを構築する～

昨年度まで「自主・連携カレッジ」として実施してきたカリキュラムをさらに充実・発展させ、今年度は新たに「地域づくり交流塾」としてスタートしました。

本研修は「主体性の確立とリーダーシップを発揮するための意識高揚」、「人的ネットワークの構築」、「政策形成能力の向上」を目的としており、今年度は県職員12名と市町村職員22名(地域おこし協力隊7名含む。)の計34名が参加し、9月～11月の間に月1回、全3回(延べ5日間)の日程で開催しました。



第1回、第2回では(株)ラーニングリーダーズ代表取締役社長の島田光浩氏を講師に迎え、チームマネジメントの重要性や、上司のマネジメントを支える「部下力」を向上するための効果的なアプローチを学びました。

今回の研修では、受講者同士が所属や職種を越えて積極的に意見交換や交流を行っており、お互いに刺激を受けている様子も多く見受けられました。

受講者には、今回の研修で学んだ知識とネットワークを大事にしてください、今後もそれぞれの職場の中心を担う人材として活躍されることを期待しています。

受講者の声

- 研修日は仕事より(!?)楽しみだった。他の市町村の方とこんなに話すことはなく、とても勉強になった。
- 人への興味・関心から関係が変わると思った。部下としての役割、上司へのフォローはコミュニケーションから始まるのだと学べた。
- 普段の業務では、自分の専門分野のみで考えがちだったが、今回研修に参加することで、色々な方々の意見を聞くことができて参考になった。違う分野の方と一緒に政策を考えていくことで、新たなサービスを生み出せると思ったので、それを自分の分野に活かしていければよいと思う。

今後の研修のお知らせ(合同研修)

- | | | | |
|-------------------|-------------|--------------------|-------------|
| ◆説明力強化研修【第3組】 | H29.1.25 | ◆コーチング研修Ⅱ【第2組】 | H29.2.14 |
| ◆条例等立案改廃研修 | H29.1.26～27 | ◆リスクマネジメント研修Ⅱ【第2組】 | H29.2.21 |
| ◆自己管理・タイムマネジメント研修 | H29.2.7～8 | ◆創造力・企画力向上研修【第2組】 | H29.2.23～24 |

事務局からのお願い

OJICでは、節電対策に取り組んでいます。

気温や湿度の状況を確認しながら空調管理を行っていますが、座席位置によっては温度調節が難しいことがありますので、ご自身でも調整ができるような服装で、ウォームビズにご協力をお願いします。

なお、体感温度・湿度には個人差がありますので、体調がすぐれない場合は、遠慮なく事務局へお申し出ください。



県職員研修

新採用職員グループアドバイザー研修



大分県では、新採用職員が早く県庁職員として馴染めるよう、「グループアドバイザー制度」を設けています。グループアドバイザー（以下「GA」）は、それぞれ新採用職員7名程度の1グループを担当し、職場外で自己啓発援助やプライベートな相談等に応じます。

この研修は、GAとして、新採用職員に対してそうしたサポートを効果的に行うために必要なカウンセリング能力等を習得することを目的に、4月6日～7日と、10月7日の計3日間の日程で実施しました。

4月開講分は、マリンカルチャーセンターで宿泊研修として行いました。前年度のGA2名による体験発表では、実際に行った活動、苦労した点など、1年間の経験を踏まえた話をしてもらいました。また、意見交換会での新採用職員との初顔合わせや、夕食時の懇親会など、初日の研修でGAと新採用職員の距離はぐっと縮まったと思います。

また、3日間を通して、別府大学教授 佐藤敬子氏を講師にお迎えし、コーチング、メンタルヘルスと心理アセスメント、アサーショントレーニングといった、先輩職員として必要なコミュニケーションスキルを身に付ける講義を行いました。

10月には現在の活動状況について意見交換をする時間も設け、これまでの活動内容を振り返りながら、GA同士による情報共有を図るとともに、事務局に対する意見・要望等も出され、年度末までの活動に向けた大変有意義な時間となりました。



受講者の声

- 指導方法等について理論・実践を交えながら学ぶことができた。また、最近の学生や若者の傾向など、普段得にくい情報もたくさんあった。
- 具体的な事例や演習を交えて進められ、すごく分かりやすかった。GAとしての活動だけでなく、職場でも活かせる内容でよかった。

市町村職員研修

民間派遣研修

民間派遣研修は、民間企業の仕事を直接体験することで、「効率的な業務運営」、「顧客への接し方」、「チームワークの大切さ」等を学び、民間の接客感覚を習得するとともに、職員の幅広い視野の涵養と意識改革を図ることを目的に、(株)トキハ本店への派遣を毎年実施しています。

今年度は、10月6日(木)～9日(日)の4日間実施し、受講を希望する9名の市町村職員が参加しました。



1日目の午前中は、サービスと印象、サービスの考え方、トキハの企業理念等について、人事担当の方から学んだ後、挨拶やお辞儀などの基本動作や、金銭授受の仕方などのトレーニングを行いました。

午後は、実際に各売り場に分かれて販売実習を行いました。実習開始直後は、慣れないことと、緊張のせいか、不安や戸惑いの表情でしたが、実習が進むにつれ、トキハ社員のお客様第一の高い接客技術やチームワークの良さを目の当たりにし、また社員の方の丁寧な指導のおかげで受講者も次第に主体的な接客が見られるようになりました。

この4日間の研修を通じて得た民間企業の接客感覚が、今の自分の仕事を見つめ直す機会になるように期待いたします。



受講者の声

- +αの接客サービスとは、常にお客様の立場になって物事を考え、その上でお客様が喜んでもらえるような対応をすることであると学んだ。
- 民間会社は、常にお客様目線で対応を行っており、市役所における接客にはまだまだその点が不足していると感じられた。

中堅職員研修Ⅱ【新規】

これまでの中堅職員研修に加え、係長級昇任前の35歳程度の職員を対象に「中堅職員研修Ⅱ」として、今年度から新たに実施しました。

1日目午前中の「公務員倫理」では、最近の公務員倫理違反の事例などにも触れながら、心に潜む倫理違反につながる法則を学び、倫理違反を起こさないためにも、心の弱さを克服するとともに、常に公務員としての原点に立ち返って、自分自身を見つめ直すことの重要性を学びました。続いて1日目午後から2日目にかけてのフォローシップでは、部下（フォロワー）という立場から、集団の目的達成に向けて上司（リーダー）を補佐し、協力していくことが求められると同時に、中堅職員として後輩や部下に対しては、職場リーダーとなり、チームを引っ張っていくことも求められることから、メンバーとより良い人間関係を築くためのコミュニケーションスキルや、エゴグラムを活用した自己変革法について学習しました。



受講者の声

- 周りに流されず、正しい倫理観で仕事に取り組みたい。
- フォロワーシップとリーダーシップの両方を兼ね備えなければいけないことを再認識することができた。

合同研修

情報収集・分析力向上研修 ～情報収集・分析の基本を学ぶ～【新規】



この研修は、「分析とそれに付随する情報収集業務」を改めて見直し、その上で行政課題発見、改善の技術を身に付けることにより、職場のリーダーとして必要な「企画提案力、分析力」の向上を図ることを目的に、2日間の日程で実施しました。

今年度の新規研修であり、(株)行政マネジメント研究所 専任講師の佐野青子氏を講師に迎え、各班5～6名のグループに分かれて受講しました。

講義と演習を織り交ぜながら、分析対象について仮説を立てる際の「フェルミ推定」、「P E S T 分析」や「S W O T 分析」などの情報分析手法、また分析目的になったグラフ表現の手法や、「P R E P 法」による報告手法など、情報を取り扱う上での様々な手法を体系的に学びました。グループワークでは、ホワイトボード、模造紙や付箋紙等をフルに活用し、グループ内討議ののち代表者が発表をするという緊張感の中、各班とも活発に議論を行っていました。

佐野講師は、長年民間でマーケティング業務に携わっていたため、講師自身のご経験に裏付けされた丁寧な説明により理解が進み、受講者には大変好評でした。

受講者の声

- やみくもに情報収集するのではなく、まず仮説を立てて目的に沿った情報を集めることによって時間短縮され、効率がよくなることが学べた。
- 仮説の設定やグラフの作成等、様々な目的達成までのアプローチの方法を学ぶことができ、ステップを踏みながら理解することができた。

コーチング研修Ⅰ ～メンバーの個性に応じたコーチング～

組織の目標達成に向けて、コーチング技法を習得することにより、部下や後輩に対する指導力及び組織力の強化を図り、自ら将来を見据えて自発的に行動できる職員の育成を目的に実施しました。当日は、県及び市町村から係長級職員を中心に40名が参加し、ロールプレイングを通じてコーチングのスキルを実践的に習得しました。

今後は、受講者が当該研修で習得した知識やノウハウ等を基にコーチングを実践することで、各職場における組織力強化が図られることが期待されます。



受講者の声

- コーチングの基本は「対話」であり、職場のメンバーに対する傾聴や共感の必要性を学ぶことができた。
- コーチングは、相手だけでなく自分の成長、さらには組織の成長に繋がることを忘れず、日常業務に取り入れていこうと思う。
- 講師の話のテンポや資料も良かったことに加え、何よりグループでの実践が多かったため、五感で学ぶことができた。

地域政策スクール ～地域が真に求める政策を研究する～

地域政策スクールは、若手中堅職員を対象に、政策形成と政策法務について実践的な知識と行動力を育み、地域が真に求める政策を、自由かつ自主的に研究する場として開講しています。専任講師の九州大学大学院法学研究院准教授 嶋田暁文氏による講義や討議、受講生による自主研究を中心とした約8か月の長期の研修です。

今年度も県職員10名、市町村職員5名の計15名が3班に分かれて研究を行っています。

今回、各班の班長から「受講者の声」をいただきました。



研究成果発表会のお知らせ

下記の日程で、地域政策スクール研究成果発表会を行います。どなたでも聴講いただけますので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日時 平成29年1月17日(火) 13:00～16:20(受付 12:30～)

場所 大分県庁舎新館14階 大会議室

1班 研究テーマ クリエイティブ産業の創造

大分県河川課 主事 茶園 広一郎

私は今年度、13期生として地域政策スクールに参加する機会をいただきました。

私たちの班は、「クリエイティブ産業の創造」をテーマに掲げています。普段では接する機会のない参考文献を読んだり、関係団体への聞き取り調査やプレゼンテーションの準備等、日常業務とは別に研究を進めていかなければならないため、日程的にも体力的にも厳しい研修です。しかし、この研修での経験は、今後の業務で必ず生きてくるものだと感じますし、そして、これほど多くの苦勞や充実感を共有できる仲間はいません。この研修でなければ得ることができなかったと思います。最後まで13期生全員で乗り越えたいです。

最後になりましたが、ご指導いただいている嶋田先生をはじめ、この研修でお世話になっている全ての方々に、心から感謝申し上げます。

2班 研究テーマ 地域存続のための高校魅力化

大分県農林水産研究指導センター林業研究部 主事 本多 貴将

13期生として、地域政策スクールに参加させていただきました。この研修に対する率直な感想としては、「きついけど素晴らしい」です。私たちの班の研究テーマは「地域存続のための高校魅力化」と、今まで触れたことのないテーマの研究であり、研修日や県内外視察でかなり時間も割くことになるので、通常業務と研究を並行して進めていくなかで内容・時間の両方できつい面も多々あります。が、専任講師である嶋田先生からの講義で公務員のあり方や論理的な考え方等、幅広く教えていただき、研究に関して個別指導をしていただくなかで「なぜか」と考える姿勢も身につけられ、外部講師の方からプレゼンについても学ぶことができます。また、学んだ内容を研修の中で繰り返し実践するので、着実にスキルアップのできる素晴らしい研修だと思います。これらは研修で得られるものの一部ですが、こういった姿勢・スキルをより吸収して、今後の大分県の発展のために頑張りたいと思います。

3班 研究テーマ 伝統を後世につなぐ

佐伯市高齢者福祉課 主任 中路 明日香

私たち3班は、地域に根付いた「伝統」を後世につなぐための政策ができないかと考え研究をしています。地域政策スクールに行ったことのある方から、行ってみたいかと声をかけていただいたのですが、なかなかタイミングが合わず今回、自ら希望して受講しました。業務と並行してセンターに通い、研究のための講座を受講したり、その時間だけでは足りず、平日夜や週末に班員で集まったり、時には泊りがけで研究をしています。徹夜でのパワーポイント作成や、政策の練り直しなど、正直今までのどの研修よりも大変ですが、貴重な経験を得られる充実感と、班員をはじめ素敵な13期生の仲間に恵まれたおかげで最後まで頑張ろうと思っています。1月中旬が最終発表ですが、自分の住んでいる地域を「好きだ・人に自慢したくなる」と言えるような政策を提言できるように残りの時間頑張っていきたいと思います。

研修雑感

「行政経営スクールを受講して～仲間の獲得と「つながり」～」

大分県市町村振興課 課長補佐(総括) 山本 勝紀
(行政経営スクール(現 地域政策スクール) 1期生)

受講のきっかけは「人数合わせ」でした。平成16年度に職員研修所に在籍していた私。当該スクールの開講初年度、受講希望者の定員割れが見込まれ、職員研修所職員として、一定の受講者を確保する必要があったことから、自ら受講申込みをしました。嶋田先生から「職員研修所職員が受講者に入っているのはどうか…」と言われてしまいました。

研究課題は「行政評価」、現在では本県にも定着しているものの、当時はまだ全国的にも導入初期段階で、より実効性を高めるものとするにはどうしたらよいかというものでした。自分にとっては「行政評価」という言葉は耳にしていたものの、知識は皆無に等しいため、毎回、先生の講義や提供いただく大量の資料を読み重ねて知識を深め、仲間と議論をし、その成果を先生に発表するが、きついダメ出しを喰らう。意気消沈の繰り返しである一方、現スクールでも同じでしょうが、日々の研鑽が不可欠で、すぐく鍛えられていることを実感していました。

本年10月、OJICの粋な計らいで、これまでのスクール生が一堂に会す「大同窓会」が開催されました。私ども1期生も5名が集まり、あの頃の「先生と語り明かす。(ん？飲み明かす。)」が復活しました。

そうです、私が思うスクールの最大の成果は、アカデミックな名称の裏に隠された「虎の穴※」で鍛えられた仲間同士が「磨きあい」、「つながる」ことだと思います。もちろん、研究課題を解決に導く政策形成能力を身につけることも大事ですが、そういった政策形成(政策提言)に至るまでのプロセスの習得、プロセスの途中での仲間との侃々諤々の議論と議論する仲間を得ること。私の受講の動機は決して褒められるものではありませんが、受講終了後の他の研修では味わうことのできない高い達成感とともに、苦楽をともにした貴重な仲間を得たという、今後の県職員生活におけるとても大きな財産を獲得しました。

現在のスクールは、私が受講していた頃よりも嶋田先生が更に厳しくなっていると聞き及んでいます。また、県・市町村から募集した課題を研究することから、より現実味を帯び、実務に役立つものになっており、グレードアップした「虎の穴」が開講されています。

現受講生のみなさん、仕上げの段階に入っており、今はとってもきついでしょ。OBの「あんな研修はもう受講したくない。」といった声も納得できる状況になっているのではないのでしょうか。

しかしながら、この研修で得られるものは他の研修の比ではありません。高い政策形成能力の習得といつでも議論、相談ができる多様な仲間の獲得。受講終了後にそれに気づくこと、そして仲間と「つながり続け」「磨きあう」ことを大いに期待しています。

※漫画タイガーマスクに出てくる地獄の猛特訓を行うプロレスラー養成施設。転じて「厳しい訓練を課す場」を表す。

寄稿者募集中!

研修を受講された方、広報誌「OJIC」に感想を載せてみませんか？ 興味のある方はぜひご連絡ください。